

花巻市石鳥谷地域協議会 平成27年度第3回会議 会議録

【日時】 平成27年12月15日（火）午後2時00分～午後5時00分

【場所】 石鳥谷保健センター 2階 講義室

【出席者】 出席委員：11名

似内英悦、川村次男、継枝利尚、佐々木信行、藤原信雄、熊谷秀夫、
藤澤信悦、佐藤芳彰、高橋公男、晴山美紀子、鎌田愛子

欠席委員：4名

菅原重子、岩館大輔、八重樫康治、佐々木さつき

市側出席者：2名

総合政策部 八重樫総合政策部長、似内秘書政策課長補佐

事務局出席者（石鳥谷総合支所）：10名

藤原総合支所長、中村地域振興課長、晴山市民サービス課長、
藤井地域支援監、佐々木地域振興課長補佐、藤井同課長補佐、阿部同課
長補佐、晴山市民サービス課長補佐、畠山地域づくり係長、伊藤地域づ
くり係主査

【説明事項】

「新市建設計画」について（説明：総合政策部長）

合併時に策定された「新市建設計画」について、今年度末で計画が満了となること
から市では新市建設計画を10年延長することとし、財政計画や今後の予定について説
明を受けた。

【協議事項】

市町村合併の検証について

「合併効果の検証アンケート」の結果に対する具体的な意見や感想を出し合い、各
分野ごとの課題などについて検証を行った。

【諮問審議（継続）】

石鳥谷のまちづくりについて

(1) 「商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート調査」からその傾向
商店街の活性化に期待するものとして、交流機能の強化が取り上げられ、空き
店舗を活用した賑わいの場の創出などについて意見交換を行った。

(2) 南部杜氏の里づくりの推進について

「道の駅石鳥谷関連施設に関するアンケート」の検証

整備計画概要案を基に意見交換を行い、道の駅を訪れた方が利用しやすい環境
づくりや今後の進め方などについて意見が出された。

【傍聴】

会議を傍聴した者

1名

岩手日日新聞社花巻支社報道部主任 似鳥政美

※会議での発言等は別紙顛末のとおり
※会議における配付資料は以下のとおり

資料：

- ・ 合併効果の検証アンケートから
- ・ 商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート調査
- ・ 道の駅周辺整備計画概要
- ・ 道の駅「石鳥谷」関連施設に関するアンケート
- ・ 道の駅石鳥谷「南部杜氏の里」周辺図

1 開 会

2 挨拶

似内会長

年末の忙しいところ大変ありがとうございます。それぞれ日程があるということで、4名の方が欠席でございますが、地域協議会の会議は進めていきたいと思っております。

年末といえば、ちょうど10年前の12月15日は何をしていたらと思うのですが、合併ということで、18年1月1日を控えて何かとそわそわするなという感じであったと思います。早10年がたちました。

過日、県の市町村課から各地域協議会の代表の方々から意見を聞きたいということでヒアリングが約1時間ございましたが、私としてはまだ10年ということですので、ダッシュしたばかりで、まだダッシュの継続かなという話をいたしました。ただ、コミュニティ会議というものをつくったのは効果があったのではなかろうかという話はしております。結果につきましてはこれから皆さんがご判断なさることでしょうし、市民の方々がそれぞれの立場で検討してくれるのではなかろうかと思っております。

ただ地域協議会としても10年という年月を振り返ることは必要ではないかと思っております。

過日、東京で開催された在京石鳥谷町人会の総会に出席したときに感じたことがございます。フィナーレの時に石鳥谷音頭を踊ったのですが、この人たちのDNAは花巻市ではない石鳥谷町なのだなという感じがいたしました。地域を離れた人は自分の生まれた石鳥谷町を見ているのだなと私自身感じてきました。

新市になったとしても、今日のアンケートの中にも出ているようですが、石鳥谷地域の独自性、あるいはそれぞれのコミュニティ会議の独自性を大いに尊重していかなければならないし、反省としては、離れた地域にも少し目を通してもらえれば幸いです。決して平等不平等という意味ではありませんが、小さいところにも目を向けることがこれから大切じゃないかなという感じがしました。

10年の節目ということで今日は検証していただきたいと思っておりますので、どうかよろしく申し上げます。

※ 中村地域振興課長による資料確認

3 説明 「新市建設計画」について

議長：似内会長

口頭による説明（説明者：八重樫総合政策部長）

似内会長

今日は部長さんから口頭説明ということでございます。12 月中には資料を各委員さん方にお届けするというので、今日は考え方をお話ししていただいたわけでございます。

ここでご質問ご意見等お受けしたいと思えます。

佐々木信行委員

1 点質問ですけれども、先ほど合併特例債を使うことができる事業という話の中で、新しくものを作ることもそうなのですが、将来的に人口減少が進み財政的に厳しくなる中で、現在の中で財政的に足を引っ張っている施設であったり借地であったりいろいろな部分が考えられると思えますけど、そういうことを整理するとか統合して新しくするとか、そういうところにこの合併特例債というものは使えるものですか。

八重樫総合政策部長

花巻市の公共施設は旧 1 市 3 町すべて花巻市の公共施設ですから、数からすれば数百の建物があります。現在、公共施設の総合管理計画というのを財務部契約管財課の方で見直しをしております。それぞれの施設に建築年度があって現在何年経過しているかというのを全部調査したうえで、今後見込まれる改修時期の洗い出しを今しているところでございます。その作業がだいたい年度末までには目途をつける形になりますが、次のステップとすればそれらを将来どうするか、大規模改修してまた 30 年持たせるのか、あるいは人口減少の話もありましたように、統合して新しいものを造って、新たな規模縮小したもので維持していくのかというような再配置計画については次のステップということで来年、再来年にそういう作業をしていくという考え方でおります。

盛岡などでは新聞の情報によりますとすでに行っていて、これから維持するのに奥州市では年間の維持経費で大体 10～20 億かかっているのが、将来また 10 年～20 年になるとそれが倍になるという推計をしているようです。ですから花巻市でもそういった推計をしながら、施設を統合するとかを考える必要があるでしょうし、少子化の時代でもありますので、どの程度の人口をみながら施設を維持していけばいいのか、その辺を見極めたいうでやらなければならない。ただ、新市建設計画は 3 月までに決めて 10 年延長を認めていただく仕組みになりますので、具体的話はまだできない状況ですので、統合も視野に合併特例債を使って新しいものを建てられるような、いわゆる言葉としては許容できるような計画にしておきたいという考え方で整理していこうと思っております。

したがって適債事業とすれば新市の一体感の醸成ということ、それから地域の均衡あ

る発展というのが二つの大きな合併特例債の発行目的ですので、その考え方にフィットするようなマッチするような概念を打ち出せば、多くの施設では起債が認められるものだろうと思っております。

花巻の総合体育館は、合併後に第2体育館を造りましたが、あれも合併特例債で行っています。当初、新市建設計画には具体的に第2体育館の建設というのはなかったけれども、新しい花巻市として体育施設を充実していくという考え方が文言の中にあっただので、これに合併特例債を充てましょうという経緯がありました。

そういう意味で言葉で拾えるような概念で整理していこうと思っておりますので、何かアドバイスがあれば資料をお送りした後で、秘書政策課まで連絡をいただければ検討させていただきますのでよろしくお願いいたします。

似内会長

総合支所から諮問をいただいている道の駅石鳥谷周辺については皆さんからご意見があるようですので、これらについても私どもからの提案ということも視野に入れてもいいのではないかなと感じます。その後は総合支所長から八重樫部長へは連絡がいくと思います。

八重樫総合政策部長

すでに市内には道の駅がありますが、その拡充とか他の地区でも道の駅を要望している地区もありますので、どの道の駅という書き方はしないで道の駅の整備というようなことで計画に入れておけば、将来その話が具体的になるでしょうから、そのときに起債が使えるようにしたいと考えております。それから立地適正化計画にも道の駅について触れていると思います。

似内会長

その他ございませんか。今後10年間の新しい計画ということで、新市建設計画を大いに期待して私どもも新しいまちづくりに貢献できればと思います。

説明はここで終了させていただきます。

4 協議 市町村合併の検証について

資料に基づき説明（説明者：中村地域振興課長）

似内会長

各地域協議会でも同じようなアンケートを取って、こういう形にまとめているのですか。

中村地域振興課長

各協議会によってやり方は違いますけれど、いきなりどうですかという話をしてもな

なかなか出ないので、ある程度このような形をとって皆様からご意見をいただいた方が分かりやすいと思ひまして、石鳥谷地域ではこのような形をとらせていただいたところでございます。

似内会長

これから石鳥谷地域協議会としての意見を文章でまとめるということですか。

中村地域振興課長

そうです。

似内会長

忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

項目ごとに検証していくということなので、「住民参加・コミュニティに関する事」というところからそれぞれご意見を出していただきますが、基本は合併前と現在との状況を比較していろいろご意見をお願いしたいと思ひます。

熊谷秀夫委員

私はこの欄はほとんど不満の方に書いております。まず住民参加ですけれども、大瀬川地区はコミュニティ会議ができて8年9年になるわけですけれども、もっとコミュニティにおいて人材育成をしなければならぬと思ひておりましたが、この点については一向に進んでいない。小さい組織ですけれども、65歳まで稼げるようになった分、逆に人材が無い。もっと力を入れてほしいというのが一つでございます。

もう一つは、石鳥谷地域のNPOやボランティアの立ち上がりが少ない。北上川沿いで石鳥谷に来ればNPO団体が少なくなくなるそうです。また紫波から北に行けば組織が増えていくという状態だそうですけれども、なぜだろうなという感じがしてちょっと不満かなという部分がありました。

似内会長

熊谷委員からはちょっと物足りないというご意見がありました。

自由にご意見をお願いします。

鎌田愛子委員

私は八幡まちづくり協議会に10年関わってきました。はじめ市から助成金をいただいてそれをどう使うか苦勞して10年目で使い道が見えてきていますが、もっと地域の人が関わってくればいいと思うところがあり、10年間やってみても同じような人だけが役員をしてきました。

一番感じるのが、退職した60歳代の団塊の世代の方が、まちづくりに来るかと思ってもイベントや行事に出てこないし、力をいただきたいのに声を掛けても、家の方が忙しいとかで来ていただけない。その方たちを頼りにし、関わってもらったり助言していただきたいことがあるのに残念だなと思ひます。

今まで行政にお願いしていたことを、地域の人が分からないことは聞きながら、少しずつ地域のためにやっていますが、いまだに何をやっていいかわからないという意見もあるので、それぞれのコミュニティの情報を聞けるようなものがあればいいと思います。広報が詳しく書いてあるのでよく見ればいいのですが、10年間やってみてそう思いました。

似内会長

今、熊谷委員さん、鎌田委員さんからお話がありました。アンケートの中身は「良い、あるいはやや良い」とありますが、今のご意見を伺ってみるとなるほど、とつくづく感じております。私も団塊の世代のものです。実際65歳以上、敬老会に参加する前の人たちが地域にたくさんいるわけですが、地域の行事などには出てこない。身近なところでいけば、新堀地区コミュニティ会議の会長さんもいるわけですが、文化祭をやったときに団塊の世代がどれくらいきているかと言えば、役員は来ているが、ほとんど来ていない。

団塊の世代をいかにコミュニティ活動に取り組みせるかがこれから大事になってくるだろうし、まもなく介護の時代に入る前に地域活動に参加させるということが重要だと私自身感じています。

どうぞみなさんもお意見があれば出していただきたいと思います

高橋公男委員

鎌田委員さんから、もっともな話、これは各委員さん方も感じていらっしゃるのではないかと感じております。退職して地域では期待をして待っていたのに、なぜ出てきてくれないのかということに疑問を持ったほうがいいのではないかと感じます。

もう一つは、退職する前に、会社などに勤めている段階でも地域に関わりを持たせるというのは大変大切なことではないかと感じております。退職してから地域活動に参加してもらうのではなく、若いうちから地域に入っていただけるような地域づくりをしていかなければならないのではないかと感じています。

小学校、中学校の時は子供会で地域になじんで親と一緒に出てくるのですが、それが社会に入ってしまうと出てこなくなる。せっかく若い時に築きあげてきたものが途切れてしまう。途切れたものは退職した後もずっと続いてしまうということなので、生涯を通してやる地域づくりというのはまさに生涯学習でありますので、ずっと地域の一員として出てくるような施策と申しますか、地域のあり方であってほしいなとつくづく感じております。どうすれば出てくるのかということをお聞きしたいと、これからのコミュニティづくりを前に進める大きな柱となるだろうと感じています。

藤澤信悦委員

12月12日付の岩手日報の日報論壇に、高橋公男委員さんが『地元を知ることが大切』ということで書いておりましたが、この中で「人口が減少し、高齢化が進む時代ですが、これも時の流れと受け止め、それに沿った地域社会を創っていかなければならない

のでしょう」ということで新堀の方では地元をまず知ることが大切だと書いておりました。種森公民館の館長としての記述でしょうけれど、この一文に大変感銘しました。

そういう時代はどこにでも来ているわけですから、それぞれの地域の立場で少子高齢化に対応したことを考えていかななくてはならないと改めて感じた次第でございます。八幡地区でも二つ三つ考えております。

それから、このアンケートはほとんど3番の同じに回答しました。合併10年前と正直言ってはつきり比較できなかったからです。変化はあるだろうけれども、これは合併した成果なのか、あるいは合併の弊害なのか判断できないということで、ほとんど変わらないと回答しました。唯一、コミュニティの参加について自分のことを考えると、10年前まではコミュニティに顔を出した記憶がありませんが、退職してから民生委員をやったり福祉関係に携わったりして、この10年間で非常に自分は変わったと思います。変わった人もいるが変わらない人もいます。比較できないということがまず第一です。

藤原信雄委員

私はほとんど、合併して良いと回答しました。実際、コミュニティの役員をやったことによって、市役所の部課長さん方の顔とかよく分かるようになってきました。何もしなければ知る機会がないので、いつも一生懸命やってくれているなということで、ほとんど良いに丸をつけました。

ただ、10ページに書きましたが、産業活動についての質問は、企業化支援をやったわけでもないし、農家に対する支援はどの程度まで行われているのか分からないので、何と答えてよいか苦労しました。要するに農林事業とか工業商業、企業化支援、果たしてどれだけ行われているか報告が無いので、あえてここで書かせていただきました。もし回答が聞ければお聞きしたいと思いました。

高橋公男委員

確かに藤原委員さんのおっしゃるとおりです。例えば市の職員であっても、行政の分野はたくさんありまして、農業、商業、観光あるいは保健福祉や教育など各分野ありまして、行政の全てを知っている職員はほとんどいないと思います。

藤原委員さんのおっしゃるとおり、専門分野以外のことは分からないと思います。ただ、ある程度のことは分かっていたきたいという部分もありますので、住民の方が分かるような広報の仕方が大切じゃないかなと思います。広報では財政資料でいろいろ載せますが、数字だけでは中身が分からないと思います。ある程度中身が理解できるような内容のものを住民に周知させるような施策といいですか、そういうものが必要じゃないかなと思います。藤原委員さんの意見はおそらく皆さんがそう思っていると思います。

似内会長

人材育成についてのご意見が出ましたし、世代によってコミュニティに参加しない人が多いのでは、参加させるためにどう盛り上げていくかという話題がありました。

次に保健福祉についてどうぞご意見を出していただきたいと思います。

藤原信雄委員

考えてアンケートに回答しているのだから意見の出しようがないと思います。

あとはこれをみなさんがどうまとめるかだと思います。この結果をふまえて事務局にお願いしてまとめて出してもらえないと思います。

似内会長

ここは強調したいということがありましたらお話していただきたい。

藤澤信悦委員

保健センターとか社会福祉協議会に仕事の関係で行くことが多いのですが、非常に閑古鳥が鳴いているということを感じます。保健センターの事務室に電話を掛けると、総合支所に転送される。総合支所から保健センターに電話が回ってくる。社会福祉協議会も事務室は人が少なくなる、高齢者対象の事業のすみれ会の回数も減って、町内の高齢者から不満が出てきているということを本当に痛切に感じます。これは合併の弊害がなのかわかりませんが、そのような変化があるということを特に強調して言いたいと思います。

似内会長

保健センターの職員が総合支所に移動したのは何か理由があったのでしょうか。

藤原総合支所長

総合支所に保健センターの職員が今年の4月1日から移動したのですが、職場の安全性が保たれないというのが第一歩です。

普通の健診体制であれば何も問題はないのですが、大変悪いのですが様々な障がいを持っている方々との関わりの中で、やはり女性だけの職場で危険を感じたということも過去にございましたので、支所に保健センター職員を配置し、健診は保健センターに来るというふうに見直されたものです。併せて土日開庁もやはり職員が少ない中での業務中に、何らかの犯罪が起きる可能性もあるということを見直しをかけ、今は実施していないということです。まずは勤務体制の安全を図るという目的であるというのが大きなポイントでした。

似内会長

職場移動が「高齢者や障がいのある方等への福祉サービス」ということに繋がるのですか。

藤原総合支所長

「高齢者や障がいのある方等への福祉サービス」については保健センターに職員がいないと低下するというわけでもございませんし、職員がいたとしても少ない体制で留守番をしなければならなかったり、住民の方が支所を保健センターとを行ったり来たりしなければならぬということもございましたので、一か所で要件が足せるという部分は

良かったかなと思っております。

社会福祉協議会関係のお話でしたが、社会福祉協議会については私たちは触れることはできませんけれども、今課題になっているのが包括支援センターのあり方で、これは本庁では新館の1階にあるので、3総合支所も包括支援センターを総合支所への動きはあるものの、関係団体のご理解がまだ得られていないという状況であるということです。

高橋公男委員

動かすことは悪いことではないと思います。理由があって動かしたわけですから。動かした後の施設をどう利用するかということを考えていかないと、全ての施設を開けておいて良いということではないと思います。

さきほど藤澤委員さんに私の記事のお話をしていただいたのですが、やっぱり人口減少社会、高齢化社会ですので使う人間が減ってくるのは当たり前ですから、その中で空いた施設をどう活用していくかということが大切なわけですので、せっかく立派に作ったのを無駄にしないで有効活用したほうがいいのではないかと。

だとすれば、もし行政で使い切れないのであれば民間で活用していただける方法がないか、あるいはNPOで活用していただける方法がないのかなと。相対的なデータを取って目を向けていくべきことではないかと感じます。

例えば、会社に貸して保健センターで生産活動をさせ使用料をもらうとか、開けたら開けたなりに活用することを考えるべきだと思います。

特にここ保健センターは医療関係機関なので、何か模索する方法がないのかなと感じます。

藤原総合支所長

今のお話に対してコメントは差し控えたいと思いますけれども、職員が動いて一年目ということで、将来的には指定管理という方向性に行くのかなと思います。

私どもとしても、保育行政サービスに保健センターを活用できないかとのことで検討した経緯があり、1階の部分は健診日との絡みなどいろいろありまして難しいのですが、今はシルバー人材センターさんしか入っていないので、子供の関係の団体などが指定管理を受け、日程調整をしてうまくいけるのであれば更なる施設の有効利用ができるのかなと感じておりますけれども、まだそこまで進んでいない。いずれ高橋委員さんからもご指摘があったとおり施設は有効利用していかなければ宝の持ち腐れとなりますので、今後考えて良い方向に持っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

似内会長

晴山委員さん、佐藤委員さんは保健医療福祉についてはご見解はたくさんお持ちかと思っておりますので、お聞かせいただければと思います。

晴山美紀子委員

私は石鳥谷に生まれて育ったものですから、長い付き合いもありますし、いろんな人

たちの話を聞くと、こういう人が石鳥谷にいるんだということが結構あるんですね。そういう立場の違う人たちとの話し合いの場がやっぱり足りないのかなと。私も似内会長や高橋委員と同じ団塊の世代の真っ只中ですが、いろいろな場に行っても出てくる人が少ない、けど同級会すれば出てくる、これは何なのだろうと思う。魅力が無いのかなと思うわけです。年金が少ないとか遊ぶところがないとかいろいろ言う人は結構いるのですが、立ち上げるときには人がやってくれるのを待っている。

NPO というのが紫波で結構あります。婦人会も岩手県レベルになると NPO 法人ですけども、各地域になるとまだ地域婦人会という名前があって、ボランティアでもそれぞれの活動の素晴らしさがあるんだけど、そこから輪が広がっていかない地域というのは何なんだろうと思うことはしばしばあります。

似内会長

佐藤委員さん、民生委員もやっていらっしゃいますが、いかかでしょうか。

佐藤芳彰委員

石鳥谷同好会というゴルフの会がありまして、そこに新規会員として釜石の方がいらして、震災により石鳥谷駅西に住宅を購入され住んでいるのですが、その二人の方が、こんな素晴らしいところはない。飛行機、新幹線、高速道路の三大高速があり、大変良い場所だと言っておりました。私たちはずっと住んでいると、不便だとは感じたことはありませんが、他から来た方にとっては良い地域であるということ、今後地域協議会でもいろんなことを協議して、花巻市全体特にも石鳥谷地域が良くなればと思います。

合併 10 年間で感じたのは、やはりコミュニティの設置、八重畑について言えばこの 9 年間があるからこそ地域の課題、なかなか行政では気が付かないことも地域の住民が要望して集約して、地域でやれることはやる、行政に要望するものはするというをやってきた結果、住民の方から、当初よりもコミュニティというのは問題課題を提案すればいい方向に向けていってくれるのだなという意識は高まっていると思います。最近提案提言の件数が少なくなってきました、良いことかなと思っております。

団塊の世代の参加については、一つの方法として、八重畑では区長、公民館長は全部コミュニティの役員をやっております。それぞれ割り振りをしてできるだけコミュニティの事業に参加してもらっています。コミュニティは約 600 世帯のためにやっておりますから、私だけには関係ないということはないと思います。

一番の私の悩みは、若者が各 12 区から青年部的に推薦してもらっていますが、会議を開催しようとしてもほとんど来ない。若い人たちをどう集めて地域について話し合ってもらおうかを考えていただきたい。

福祉という関係からすると、健康年齢が高まってきていることから、皆さんが病気をしないで健康であれば働く機会が多くなる、そうすると収入も増え医療費もかからない、といったように予防医療に花巻市ももっと力を入れていただきたい。

今後コミュニティで生涯学習をやることになるのであれば、地域の人たちの健康をテーマに進めていきたいと思うが、市でも取りあげていただきたいと思います。

似内会長

健康維持、予防医療に力を入れてほしいという大きな意見がございました。
教育スポーツ文化について何かご意見があれば出していただきたいと思います。

佐藤芳彰委員

いよいよ1月にはアイスホッケーが始まるわけですが、八重畑の特産であるリンゴにマークを入れたものを全国から集まるアイスホッケーの選手に寄贈するという事で準備している状況です。八重畑コミュニティではそれらを参考にしながら、10月2日からのソフトボールでもりんごにマークを入れ、八重畑小3年にマークと標語を募集して、コミュニティの予算で国体の参加選手に寄贈するという事業を今年度決定いたしました。

50年に1回ですから、前のインターハイでも非常に盛り上がった経緯がありまして、石鳥谷全体が盛り上がったことも思い出して、今度の国体に取り組もうと思いました。コミュニティでは、農協にも予算的な支援をいただき、各方面からも支援をいただきながら盛り上げていきたいというふうに計画をたてておりました。

似内会長

ありがとうございました。他にありませんか。

「教育・スポーツ・文化に関すること」で興味深いと思ったのは、問11の「生涯学習、芸術・文化活動」についての回答が、3つに分かれています。良い、やや良いで5、同じが3、やや不満が3というふうに大きく3つに見解が分かれていますのですが、これに関してみなさん何かございませんか。

(発言なし)

次に環境保全、ごみの問題についてはどなたかご意見ございますか。

高橋公男委員

ごみの関係ですが、アンケート内容のことではございませんが、少しPRさせていただきたいと思いますが、12月1日に自治公民館連絡協議会の研修がありまして、旧和賀町の岩手中部クリーンセンターを視察してきました。今までは五大堂の清掃センターで燃えるごみも燃えないごみも処理していたわけですが、今度は広域的にごみを処理しようということで、10月から燃えるごみの処理を稼働して1日に90トン処理できる機械を2基設置していました。清掃センターでは燃えないごみを処理し、クリーンセンターでは燃えるごみの処理をするということで、すごい設備ができておりました。個人でも持ち込みができるそうですし、やはりごみは広域的に処理するのがベターじゃないかなと感じてきたところがございます。個々だと分別しないで排出するところがまだあるというふうに聞いておりますが、環境を整えながらお互いに生活していくことですので、やっぱりごみは指示されたとおりに分別して排出するべきことだと思いました。

あのような施設は、それぞれの地域でも見ていただいて、皆さんが利用する施設ですから、見ることも非常に大切ではないかと感じました。将来は燃えないゴミも処理する施設を建てるそうです。そういうところがございますので、機会があったら行ってみたいかどうかと思ひまして皆様方にお伝えしておきます。

似内会長

他にございますか。

熊谷秀夫委員

私はこの項目は悪いほうに回答しておりますけれども、処理場が遠くなったので、業者は普通は2回、多くて3回しか稼働できません。そうなりますと、ごみステーションにごみがいっぱいになると持っていけないと言われるのです。回収業者の台数を増やすという形になれば最高に良いのですが、実は私たちのコミュニティは運動公園も管理しております、木の葉も持っていくと言われたのでごみステーションに入れたところ、全部出してくれと言われた。なぜかと聞いたところ一般のごみが入らないからという話をされたわけです。2回しか運べないので大変だということで、たまに残すこともあるということで、木の葉だとカラスが来ないので出してもらえれば良いという話をされました。

大きな設備にしたけれども、地域にとっては運搬回転が少なくなったという感じがしております。ただ、遠くなったためにどこの地区もルールが一緒になったのですから、ペットボトルもラベルをはがさないと持っていきませんので、ちゃんと出すよう話をしております。最近は慣れて守られるようになって良くなって来たと思いますが、回収の回数が少なくなったことは残念です。

晴山市民サービス課長

熊谷委員からお話が合った件については、大変申し訳ありませんが承知しておりませんが、回数が減ったというお話がありましたけれども、出しているものを収集しないということがないようにしなければならぬと思っております。遠くなった分、業者委託の契約内容がどういったものなのか、本庁契約なので内容を確認し把握しながら、ごみの部分については衛生的な面もございますので、あとで状況を詳しくお聞かせいただきたいと思います。

似内会長

ごみの問題は永遠の課題だと思います。

熊谷委員さんがおっしゃったとおり、遠くなったので軽トラックで運ぶ際は半日かかりで運ばなければならないということが気になっておりました。矢沢の清掃センターへは2回も3回も運べたのですが、今度は半日かかりで運ばなければならないになりました。不満とはしませんでしたが、個人的には遠いなと思っております。

次に産業活動について何かありますか。

問21の商業の振興では、やや不満が断然多いようです。分かるような感じがします。

晴山美紀子委員

商店街活性化に関するアンケートを眺めておりましたが、私たち協議会委員と商売をやっている方々との意見が結構違うところがあるようですが、全く違うところが、問12の商店街の空き店舗の活用方法について、私たちは「一般への貸し出し（1坪ショップ等）」への回答はゼロですが、商店街の人たちの回答はこの項目が一番数が多いのです。考え方が違うな、と思って眺めていました。皆さんはいかがでしょうか。そこが違うのかなと。

商店をやっている人たちも「地域住民の交流の場」に回答している人の数が多い。先行き不透明とか後継者がいないという理由がありながらも、こういうことは考えているのだなと思いました。

高橋公男委員

問21の商業の振興については「良い」「やや良い」という回答が全くないわけです。佐々木信行委員さんはじめ商売をやっている若い方々が一生懸命やっていただいております。ただ、回答を見ますと、やっているにも関わらずこういう状況だというのは、晴山委員さんがおっしゃるとおり何かあるのかなと疑問に思っております。やる方と受ける方との気持ちが一致しないのかなという感じがしないわけでもございませんが、新聞紙上などでは「まちの駅」でやっている賑やかさがすごいなと思って見ております。そのようなことからすればアンケート回答はもう少し良い内容でもいいのかなと思いますが、我々の推量ではできないことがあるのかなと。そこで町場の商業というのは、みんな考えているのだけれども、前に進まないのかなと感じております。佐々木委員さん、何か意見ございませんか。

佐々木信行委員

商業振興のための活動は、商店街がどんどん衰退していつている中で何とかしたいという思いがあって、多分合併前よりも皆さんいろんなことをされているのではないかと思います。振興として頑張っているかどうかについては皆さんにも評価いただきたいと思いますけれども、合併して結果的には商店街が衰退しているとか、少子高齢化が進んでいるとか、合併が特効薬で何でも効くということにはなっていないのかなというのが残念ながら表れているのかなという感じがします。本当は合併を生かして地域の商店が賑わい、若者が定着して少子化が解消されて、より人口が増えるような右肩上がりの社会になるかといえば、合併してからの10年を振り返った時に、結果として残念ながら商業も各地域がどんどん厳しくなっていくという答えになっているのかなと思います。

これからの10年を逃してしまうと、多分これから20年30年先の子供たちの時代にいい環境を残すことが不可能だと思われるので、我々親世代もなんとか次の環境のために今、踏ん張ってがんばらないといけないと個人的にも思っておりますし、市全体としてもこれから10年を本気でいろんな施設整備もやらないと多分財源が不足して何もできなくなってしまうと思うので、みんなで知恵を絞っていい方向に舵を切って、この

10年を活かしてこれからの10年につながるよう、未来につながるような形にぜひとも本気でみんなでやっていければなと思っていますところす。

我々もいろんな話を聞きながら、PTAの人たちの無関心という話も全くおっしゃるとおりで、できれば役員をやりたくないという人がほとんどですが、先ほど佐藤委員さんがおっしゃったことと言えば、子どもが学校にお世話になっている以上、親の責任として、他人事で言ってることではいけないというのもそのとおりだと思いましたので、そういうことを踏まえて若い頃から一回は役員をしたり地域との関わりを持つような仕組みとか仕掛けをつくり、その人たちが年代を重ねて第2の人生に入った時に、より地域に関わることができるようPTAの役割として考えていかなければいけないと思っています。

藤原信雄委員

我々が心配するほど商店街が困っていないのではないかと思います。むしろこういった問題は商店街側から出てこなければならぬですね。我々が消費者側の立場として大丈夫かな、もっと活性化したいなと思うのはもちろん大事ですが、実際、商店街の皆さん方から自発的に発信してもらわないと、我々外野がどうこう言っても何ともならない問題ですし、こういった会議の時にたまたま話題になることですがけれども、商売をやらなくてもなんとかやっていけるといふところも中にはあるわけす。ですからこれは自発的に商店街の内部から活性化が叫ばれるようにならないと、我々がいくら活性化を叫んだところで限界だというふうに思います。

似内会長

問21については委員さん方10名が回答なさったようですが、同じかやや不満と回答していることに着目しなければならないし、これから審議していただく商店街活性化・駅周辺の人口定住促進にも関連してくると思います。今回のアンケートばかりではなくこれからも相当掘り深めていかなければならない課題ではないかと思ひます。委員さん方の回答からも分かるように今後も検討し十分心しなければならぬ中身だなど思っております。

次に進みます。交通やそれに関するまちづくりについてはいかがでしょうか。公共交通機関についてもご意見がいろいろあったようす。佐藤委員さんがおっしゃったとおり、わが花巻は交通インフラに優れており羨ましがられているわけすが、うまく活用できていないことが逆にあるのかなという感じはいたします。

(発言なし)

それでは次に進みます。住環境の整備、安全なまちづくりについては何かご意見ございますか。同じという回答がほとんどで特に目立ったことはないと感じております。同じということはそれなりに満足しているということに捉えていいのかなという気がします。

(発言なし)

ではその他ですが、国際交流、地域間交流、地域の情報化、情報通信基盤の整備、役所・役場での窓口サービスの利便性向上について、何かございますか。

藤澤信悦委員

教育についてですが、よろしいですか。

似内会長

どうぞ。

藤澤信悦委員

先ほど保健センターの活用についてお話しをしましたが、実は八幡振興センターに子育てサークルというのがありまして、そこには八幡だけではなく八幡以外の子供たちも来ています。八幡としては大変誇りに思っただけでなくぜひ活用してほしいと思っておりますが、しかも福祉部会が財政的な支援もしていますが、他の子供たちも来ていることを考えると、八幡振興センターを使うよりはこの保健センターを活用したほうが石鳥谷全体として良いのではないかと思うわけです。他のコミュニティからも援助をいただいて保健センターでやれば大変いいのではないかと感じました。

藤原信雄委員

その件に関しては、好地でもやっておりましたが、集まり具合が悪くせっかく遊具や道具を買って揃えても1組2組の親子しか来ませんでした。どういうふうにしたらよいか色々考えたのですが、単独でやるのは無理だということで、一部八幡に行ってお世話になっている方もいると思います。ですからもう少し広域的に考えないと成り立たないと思います。

似内会長

広域でやっていくというのもそれでメリットがあるのであればやったほうがいいと思います。

藤原信雄委員

せっかく広報でお知らせしたわりにはあまり集まりませんでした。

藤澤信悦委員

八幡では結構来ています。10人くらいきているようです。

川村次男委員

町内全体で集まれるような呼びかけをして1カ所で子育てサークルをすれば、この保健センターも大々的に使えるのかなと思います。

似内会長

それでは、合併効果の検証ということのでいぶ時間を取って皆さんからご意見をいただいたわけですが、そろそろ区切りをつけたいと思います。「Ⅱご意見、ご要望について」は、そのとおりだと思いますので特に議論は致しません。アンケートの回答内容について、コメントがあればいいかなと思ひまして時間を取らせていただきました。ここで閉めてよろしいですか。

高橋公男委員

一つ訂正をお願いします。

11 ページの3つ目「～反面、旧来の施設が無くなってきているので～」とありますが、「無くなって」ではなく「古くなって」に訂正をお願いします。

藤澤信悦委員

どこで発言していいのかわかりませんでした。ご意見ご要望の欄は私は結構書いたのですが、アンケートを見ていて、とにかく実行あるのみだなと思いました。そこで私は3つぐらい考えたのですが、石鳥谷町の特徴として、やっぱり産業は農業が中心ですので、農業振興とそれから福祉・教育の振興を高く掲げて市の他の地域より先んじて何かやったほうがいいのではないかと考えます。

それから農業が中心だとしても、他の地域との連携、例えば釜石の漁業との連携をして、農業と漁業との連携ということで南部杜氏の里づくりとも関わってきますけれどもそういうところの活性化にもなるのではないかと思っているのが二つ目です。

アンケートの中に高齢者が集える場所についてありますが、高齢者プラス子供たちを対象にした何か面白い事業を石鳥谷町としてあるいはコミュニティとして大きいイベントを考えることが必要なのではないかと。そうすれば石鳥谷全体が盛り上がっていくのではないかと。3点を考えましたので、「ご意見ご要望」の中に加えていただければと思います。

率先して農業・福祉・教育の振興を石鳥谷でやること、それから沿岸との連携をして農業を活性化していくこと、それから高橋委員さんがおっしゃるとおり、高齢者が増え児童が減っていくわけですから、高齢者、児童を対象とした何か面白いことを真剣に考えること、実行あるのみと思います。

似内会長

付け加えていただきたいと思います。

それではだいぶ時間も経過してきました。協議は閉めたいと思います。ここで10分ほど休憩を取りたいと思います。4時から再開したいと思いますのでよろしくお願ひします。

(休憩)

5 諮問審議（継続） 石鳥谷のまちづくりについて

（1）「商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート調査」から その傾向

似内会長

それでは休憩時間が終わりましたので諮問事項の継続審議に入りたいと思います。今回で審議は終了ですか。

中村地域振興課長

いいえ、まだです。

似内会長

まだ継続するということですね。わかりました。それでは5番目の諮問事項の審議ということで、石鳥谷のまちづくりについて、その一つ目「商店街活性化・駅周辺の人口定住促進に関するアンケート調査からその傾向」ということで、事務局のほうからご説明をお願いします。

資料に基づき説明（説明者：畠山地域づくり係長）

中村地域振興課長

皆さんに事前配布して読んでいただいておりますので、こちらの事務局側からのお願いとしては、将来のまちとして何を期待するか、目標とすべきことは何かということをご皆さんに意見交換していただければと考えておりますので、よろしくをお願いします。

似内会長

分かりました。先ほど晴山委員さんからお話がありましたとおり、ここにおいでの方で事業者さんというのは佐々木委員さんがおいでになっているわけですが、いわゆる私も街の中に住んでいない者が見た場合と、実際に営業をしている或いは仕事をしている人から見た考え方とではズレがあるのかなという感じがいたします。これをクロスして合わせて見ていけば、何かヒントが出てくるのかなと思います。今日で終わりということではないので、自由にお話を出していただきたいと思います。ご意見或いはアンケートで気になったことがありましたら、ご紹介いただければと思います。よろしくをお願いします。

藤澤信悦委員

アンケートを見ますと、問13には「高齢者などの集う場など交流機能の強化」にかなり高い率で答えているのですが、ここを具体的にがんばったらどうかと思います。私は八幡の直町地区ですが、他も同じだと思うのですが、いわゆる中心市街地の周辺部で

は、公民館を利用した高齢者の集いというのは結構サロン活動としてあるわけですから、周辺部では心配ありませんが、商店街の中ではこういう部分は弱いのかなど。社協関係のサロン活動の様子を見ましても、商店街の中でのサロン活動は活発ではないなど心配しておりまして、このことを考えるとこれからの時代にマッチするのではないかと思います。周辺部はサロン活動は充実しておりますので心配ないと思います。

似内会長

今、空き家問題もだいぶ話題になっておりますが、空き店舗の問題も話題になっていのではないかと思います。商店がシャッターを下ろしたときにじゃあそこを貸すかというところにも乖離がある。確かに言われてみればそこは自分の家でもあるので、こちらがこうしろということはできないと思いますので、何か工夫をすれば空き店舗を活用する方法があるのかなと思います。ただ、自分の家の台所をのぞいてもらっては困ることもあるから空き店舗を積極的に貸し出すということがないのかもしれない。

このアンケートは私どもからみた考えと実際に店舗経営している人たちとは違いがあるなと感じます。

今、藤澤委員さんからご意見をいただきましたが、他にご意見ありますでしょうか。

晴山美紀子委員

地域協議会委員へのアンケートの間8に「商店街に期待される施設はどのようなものですか」という項目があって、「市の物産を集めた土産物店」についてのまとめで「お土産店の回答数が10あり、道の駅があるがその役割を果たしていないのか」と載っていますが、まちに住んでいる私たちの年代にとっては、道の駅はすごく遠いです。車の運転をしない人にとっては、道の駅ははっきり言ってよその商店街と同じです。わたしたちはやっぱり町中にお土産屋さんでも何でもいっぱいお店があれば、団塊の世代も出かけていきますし、稲村商店があった跡の商工会がやっている「ぷらっと」ともう一つの産直施設はシルバー人材センターがやっていますが、私も人恋しくなったときはそこへ行きます。そうすると誰かが必ずいます。そうすると「元気だったか」とか「見えなかったね」というような交流が生まれています。去年の今頃に、次の3月で店が終わりということになったのですが、継続を希望する声が出て、その希望した人たちが一口2千円ずつお金を出して続いている経緯があります。野菜や果物たった一つでも、スーパーに行かなくてもあそこに行けば買えるとか、人にも会える。私にとっては重要な場所です。そういう店が駅前にもあればいいと思うし、高齢化になれば出て行きたくないのです。70、80歳になると自転車に乗るのもおっくうだとなると、駅前とか「ぷらっと」とかそういうところの空き店舗を改修してでも、空き店舗の情報を集めていただいて是非そういう店を作っていただきたいと思います。店舗継続のためにどのくらいお金が集まったかは知りませんが、私も続けてほしかったのでお金を出しました。市でも応援していただきたいなと思います。

商工会でやっている「ぷらっと」にお土産店を置いてくれば、車でいけない人などが利用しているので売れると思います。

似内会長

一口2千円というのは、維持管理費ということで出しているのですか。

晴山美紀子委員

協力金ということで出しました。出資金ということではありません。

3月までだと言われて、この店が閉まったらみんなどうするの、ということで。

藤原信雄委員

ちなみに今日は15日で年金支給日で大した人が入っていました。

あのような日が続いてくれればいいと思いますけれども、みんな15日の年金日を目指しているんですよ。その時は大した人が集まるんです。

晴山美紀子委員

その日は石鳥谷にこんなに人がいるのかというくらい人が集まります。車も止められない。一度覗いてみてください。男の人は入りづらいかもしれない。

藤原信雄委員

月に3回でも4回でも、市日のように毎月9のつく日とか15の日とかそういうふうになればいいのでは。

晴山美紀子委員

着なくなった服など持っていけば、売り上げのうち何割か戻ってくる。だから出す人も楽しい。

似内会長

晴山委員さんの言葉の中に「人に会える」というのがありましたが、非常に重要だと思いました。いつかの地域協議会でどなたかが言うておりましたが、団塊の世代の人たちが退職して何もしないで家にいるのではなく、空き店舗を利用して娯楽など無料で楽しめるようなところがあれば、人に会えるし交流の輪が広がるのではないかという話が出たような感じがしておりましたけれども、空き店舗などでコーヒーなどを販売して娯楽などの交流の場を設けるといようなやり方も考えていく必要があるのかなという気がします。

他にどなたかございませんか。

高橋公男委員

まったく夢の夢ですが、例えば石鳥谷駅から大正橋通りまで全ての通りを本屋街にしたら面白いのではないかと思います。本屋街にするということは、そこには喫茶店がありブティックがあり休憩所があり、そして人が集まってきて本を読む、買うだけではなくてそこで本を読ませる、そうしますとそれにちなんで違う分野の集まりも賑わいも出てくる。私は神保町に行ってみて、やっぱり本というのは人を引き付ける何かがあるな

と思うので、思い切って空き店舗を全部本屋にしてもらって、その売り上げはその人のものにして、花北青雲高校の高校生たちも本屋には寄るだろうと。そして花巻には偉人もたくさんいるわけですから、偉人の方の本も単行本や漫画にできるような本を石鳥谷に集める、そして県内外にPRし人集めをし、全ての分野にわたる本をここで準備する、というような思いをずっと描いておりましたけれども、これが現実となると難しいわけでごさいます、やっぱり辺りの地域には無いもの、そしてそれが心魅かれるもの、人の目を引くもの、そういうものでなければ人はなかなか集まってこないのかなという感じがしておりました。

ほぼ100%難しいことですが、私にはそのような夢がございます。

似内会長

夢が現実になるように、皆さんからも是非お力添えをよろしくお願ひしたいと思ひます。

他に何かございせんか。

こうすればいいのではないかという意見が出ておりますが、これを誰がどうやって音頭を取っていくかということですよ。今はアンケート結果の分析ですが、いざやってみようとなった時にどこにお願ひするのか考えていく時期にきている感じがしますね。

佐々木信行委員

みなさんのいろいろなお話を聞いて思ったのですが、商店街を利用していきなり商売が成功するという考え方は難しいのかなという気がします。

その前に、まずは賑わいを作ろうということを重視して考えることができるのではないかと、話を聞いて思ひました。

高齢者の方など人の交流を目的としたスペースについて話がありましたけれども、商売じゃなくて人といろいろな趣味を共有して集まる多様性を持ったものを、特化したものでもそうでなくてもいいと思ひますが、そうすると自然に人が集まってきて人の流れができることが商売につながって波及効果がでてくるのかなと思ひましたので、商店主の皆さんが持っている趣味だったり自分のやりたいことなどを、同じことばかりするのではなく、そういうことを広げて人を呼び込むことを協力してもらえば、飽きずにいろいろなことができるのかなと思ひます。

まず人が賑わうようなことをみんなができることを提供しながら、自分も楽しくできるようなことを、どういう支援があるのかは分かりませんが、核というものができているわけですからそれを広げて賑わいを作ること考えるのも面白いのではないかと思ひます。

似内会長

非常に良いご意見だと思ひます。

藤原信雄委員

先ほど、だれが音頭をとるかというお話がありましたけれども、最近、専門会社とい

うか、まちづくり株式会社ですとか、あるいはそういったものを専門に企画する大学でもいいでしょうし、個人企業でもいいでしょうし将来的にはそういったものを利用するというのも一つの手ではないかなと思いますけれども、どうでしょうか。

似内会長

非常に良いご提案じゃないかなという感じがします。

佐々木委員さんが言ったのは、商店主さんが自分の好きなものを商売させるばかりではなく趣味など好きなことをやって人を呼ぶということですよ。

佐々木信行委員

あとは、空き店舗で何かさせるにしても、商売はちょっと難しいかもしれませんが、賑わいという意味で協力をしてやればいいのではないかと思います。

似内会長

物を売るための賑わいではなく、人との触れ合いのための賑わいも含めて、ということですね。

晴山美紀子委員

喜平堂さんには昔、喫茶コーナーをやっていました。今はそういうところがありません。もったいないなと思いました。

佐々木信行委員

商店街で出前みたいなものを、それぞれの店のメニューが1箇所で見られるようになればいいのでは。そうすれば賑わってくる。賑わってくれば物も売れる。

晴山美紀子委員

「ぷらっと」だってお菓子屋さんのケーキやお菓子を運んでくれるし、食堂のラーメンも運んでくれるし、お肉屋さんもお肉がほしいと言えば運んでくれます。

似内会長

いいご意見を頂戴しました。他にございませんか。

今回で終結ということではないので、今日はいいアイデアというかヒントが出た感じがしますが、少し掘り下げて深めていければいいのかなと思いました。

アンケートをまとめてくれた畠山さんには感謝申し上げます。非常に参考になりました。ただ、私どもの考えているものと実際経営なさっている方とのギャップをどう結び付けていくかが今後の課題だなと思います。

この諮問(1)は終わりました、次に南部杜氏の里づくりの推進について説明をお願いします。

(2) 南部杜氏の里づくりの推進について

「道の駅石鳥谷関連施設に関するアンケート調査」の検証

資料に基づき説明（説明者：中村地域振興課長）

似内会長

前に出た意見も集約したということですね。ご意見をいただきたいと思います。実際に歩いて見た訳ですので、配置についてはだいたいお分かりになっていると思います。

藤原信雄委員

アンケートにも書きましたけれども、一元管理できないのかな、と。南部杜氏伝承館はこうする、酒匠館はこうする、杜の蔵はこうする、ということではなく、一つの大きな建物といいますか、道の駅の施設みたいな感じにして、その中に伝承館もある、酒匠館もある、杜の蔵もあるといったような施設ができないかと書きました。そういうことはできないものですか。

似内会長

いわゆる指定管理みたいな形ですね。今、指定管理は酒匠館がなっているわけですが、それを膨らませることができないか、ということですが、いかがですか。

中村地域振興課長

杜の蔵は別途の指定管理となっておりますし、伝承館は観光物産に委託しています。

藤原信雄委員

利用する立場とすれば、出て歩くよりは、ある程度まとまっていたほうが使いやすいということがありますので、将来的に考えていただければと思います。

藤原総合支所長

ただ今のご意見、大変貴重なご意見でございまして、私共も杜の蔵と話し合いをしまして、酒匠館と杜の蔵は一体的にはできないけれども、観光物産の方から、杜の蔵から酒匠館に入るようにするのは歓迎します、ということでしたが、杜の蔵の方でまだ決断できないということでした。もしできるのであれば来年度の予算要求をしてそこにドアを設置して行き来できるようにしたかったのですが、合意に至らなかったということがございますので、なかなか一体感の醸成ができないということはまだ時間がかかるのかなど。

ですから私どもでこの図を描いた段階で、まず自分たちの施設としてできるところからやっっていこうというのが一つでございまして。今、記録映画の「南部杜氏」の英語と中国語の吹き替え版について国立歴史民俗博物館からゴーサインがでましたので、今その

作業に取り掛かっておりました。伝承館で吹き替え版が上映できるようになるので、外国の観光客ももっと巻き込めると。そのためには南部杜氏伝承館をもっと使い勝手がいいような形にリニューアルしたいと思っておりました。それが一気にできるかどうか別の話になりますが、ただ一つ気になっているのは、入場料がネックになっておりました。あの施設の前までは来ますが、入館料があるということで戻るんです。前から言われておりましたけれども、歴史民俗資料館はあくまで資料館ですから入館料があるのは仕方ないと言うけれども、南部杜氏伝承館は気楽に入りたいという方々が結構いるので、そのためにはやはり物販を含めた、気軽に入れていくらか南部杜氏の風習などをお知らせできるような館として、今後少しずつ手をかけていきたいなというところがございます。まずこれが最初かな、と思っております。

高橋公男委員

この件については、道の駅はかなり前からいろいろ議論を積んできているはずで、最終的にいつ頃結論を出すという考えですか。

藤原総合支所長

道の駅の構想については、私どもとしては現在作業が遅れている状況でございます。やっとなんかここまでできたのかというところで、市長からは、まず将来的な道の駅のあり方、今の現状で満足しているのかどうか、もう少し違う視点で持って来るようにと、では今すぐやらなければならないことは何なのか、この2段階構想で持って来るようにということで、やっとなんかここまで来て、これから皆様方といろいろ意見交換をして、できれば年度内決着はしたいと思っておりましたが、私どもの施設だけではなく、他の機関もございますので、教育部も新たな動きがあるということをお聞きしておりましたので、それらを含めて進めてまいりたいと思っております。

以前もある程度構想ができておりましたが、南部杜氏伝承館を産直施設にする、という案でしたが、見直す必要があると判断し、一から見直しをしたために時間がかかっておりますが、皆様方のご意見をいただいて良い方向性に持っていきたいと思っております。

玉山村から石鳥谷町に移転し改築して新たに酒蔵を建てたのですから、酒蔵はやはり活かしていくべきだろうと思っており、その活かし方をどうするかというのが一つのテーマだと考えております。

高橋公男委員

趣旨は分かりましたが、いつまでに意見を吸い上げるかということをはっきりしたほうがいいと思います。毎回こうやってアンケートや議論することはいいのだけれども、議論ではなくて結論を出すと、そして少し感じたことは、八重樫部長が話をしておりましたけれども、合併特例債を大きく活用していくという方向ですから、中村課長の話によりますと伝承館を移転して酒匠館を建てるといようないろいろな構想があるようですから、だとすれば思い切ってこの合併特例債を投入できるような形で、ある程度早く市の新しい建設計画の中に盛り込めるように進めた方がいいのではないかと思います。

す。大きな事業は特例債でやるという考え方で進めてもらいたいと私は思います。だからこそ早く結論を出すべきだと思います。

藤原総合支所長

大変な貴重なご意見、そのとおりだと思います。ただ、合併特例債は10年延長するというので、八重樫部長が申し上げたとおり今は細かい積み上げということはないのですが、あとは立地適正化計画の中にも盛り込みをしながら進めていきたいと思っています。今、高橋委員さんよりご指摘があったとおり、合併特例債の対象事業になるのかどうかは早めに結論を出して事業を進捗させていきたいと思っております。

似内会長

道の駅周辺という捉え方ではなく、道の駅の再整備としてもいいのではないかと思います。起債などを活用できるのであれば、それも一つの方法ではないかと思います。

あとはございませんか。今後は新市建設計画については時間を取らないで、今度はこちらの方に時間を取るような形で次の会議はしてきたいと思っています。どうしてもここで発言しなくてはならないという方がいらしたらどうぞ。

(発言なし)

ここで協議の方は閉めさせていただいて、次のその他に入りたいと思います。事務局の方で何かありましたらお願いします。

6 その他

中村地域振興課長

八重樫部長からも申し上げましたとおり、次回第4回の会議ですけれども、年明け1月の、時期はこれからすり合わせになりますけれども、いずれ1月中にはお願いすることになると思いますので、ご足労をおかけしますがよろしく申し上げます。

似内会長

皆さんの方からは何かございますか。

藤原信雄委員

次の第4回の会議もだいたい今日みたいな感じで、結論ということもなくだらだらとやるのですか。決定的なことを決めてこれにする、ということにしてもらわないと何回集まっても同じことになるのでは。

中村地域振興課長

1月にはこちらも方向性を出していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

似内会長

長時間にわたりましてご意見を頂戴いたしましたことに感謝申し上げたいと思います。藤原委員さんからもお話がありましたとおり、いつまでもただらとただ会議をしても何ともならないと思いますので、ある程度の目途をつけるという考え方で、次回あたりには道の駅、あるいは商店街の活性化についてもいいところまで辿りつけるようにしていただければ幸いです。そういうことで、次回1月に第4回会議を開くということをお願い申し上げまして、これで終了させていただきます。

ありがとうございました。

7 閉 会